



個性が輝く まちが輝く

とうぎやざー

みんな 仲良く 一緒に

2021.3.第24号



よかひとりレー

塚本ちゑ子さん(八女市)にインタビューしました! … 2~4

☆政策・方針決定過程への女性の登用、目標には届かず 5

☆みんなで協力して「しめ縄作り」・編集後記 6



情報誌「とうぎやざー」は、男女ともに個性と能力が十分に発揮できる八女市を願って名付けました。

発行：八女市 人権・同和政策・男女共同参画推進課 ☎0943-23-1314
こらぼれーと*(八女市男女共同参画情報誌編集委員会)

* こらぼれーと (共同)
* 情報誌を編集するメンバーのグループ名です。よろしくお願いします。



新型コロナウイルスによる
人権侵害をなくそう!

正確な情報に基づく、冷静な判断と正しい行動を心がけ、
新型コロナウイルスの悪影響を断ち切りましょう。

よかひと リレー



前八女市農業委員会会長

塚本
ちやく子さん

県内第一号の女性会長として

(取材・小川編集委員、西村編集委員)

一一〇〇年七月、八女市農業委員会の会長を退任した塚本ちやく子さん。一一〇一年に会長に就任したときは、県内でも初の女性会長として注目され、「どうぎやざー」第六号にもインタビュー記事を掲載しました。それから十年、大役を終えた今、男女共同参画や農業に対する率直な思いをたずねました。

会長になつた時は、県内では女性第一号でしたし、なんとか自分なりに、女性だからできることをやっていけたら…と思つてやつてきました。当時は男性の方たちの協力がかなりあつて、私は恵まれていましたね。今からもやれることはやつていきたいと思います。農業という分野は男女共同参画がなかなか進んでない。どうしても女性農業者は、家族の理解がないと外に出る機会もないし、女性が外に出て学習する場をもつと、少しづつ意識も変わると思いました。

——十年前と比べて、少しは進んでますか？

——それは農業委員がいわゆる勧誘をするんですか？

農業女性が決定の場に参画するのは厳しい部分があります。やっぱり男性が主に動きますからね。女性はせつかくチャンスがあつても「いいえ私は」って拒むんですよ。農業委員会も女性を一人でも二人でもプラスにしていきたいとやってきましたけど、私がいるときは農業委員は三人、推進委員が一人で四名いました。ところが今年改選で女性が農業委員一人、推進委員一人で一名なんですよ。

——数字からみると、ちょっと後退した感じのことですね。

本当にそれがショックです。農業委員会は農業委員が一四名、最適化推進委員が四十五名、総勢六十九名なんですね。女性枠を入れれば、なんとか女性も増えたと思うんですけど、それができなかつたんですよね。

——その点からしても、女性農業委員の数が減ったといつのはちょっと残念ですね。



制度を変えることが大事

— やっぱり制度を変えて後押しをしないと、なかなか進まないんでしょうか。

農業分野は内容的には女性にとって難しさも厳しさもあると思ふけど、やれる部分をしないと、絶対に農業は衰退して、このままではいかんと思います。



— 男性のほうに、女性が入ってきたら困るとか、自分たちの立場がなくなるとかいう気持ちがあるんですかね。

それはないと思うんですけどね。「いや、その分野は男性でないと、女性もいっぱいいるんですよ。だから意識改革となれば、女性がもっと外に出る機会を、ということとかと思つて。今の若い人は、グループとか組織には入りたくないと言つけど、出ていくことによっていろんなつながりを持つて、情報を持つんでもみれば、自分も成長すると思います。忙しかしながらなかなかそれが進みきれない。

普とく組織には入りたくないと言つけど、出ていくことによっていろんなつながりを持つて、情報を持つんでもみれば、自分も成長すると思います。忙しかしながらなかなかそれが進みきれない。

— 農業委員の選考で、クオータ制を入れられるような土壤はありますか？

— 家庭の中では、若い人たちにはあまり偏見なく男性も家事を手伝つたりとか、進んでる気はするんですけどね。

— それもあります。男性だから女性だからという役割分担を決めずに、教育の場でも平等だという教育になつてきてるし。若い人たちには自然に受け入れられるんじやないですかね。女性が外に出て、男性が家の中のことをしてても、それは自分たちのことだから、偏見で見るほうがおかしいことであつて。

— 女性がもつといろんな分野で出てこないといけない時期で立場がなくなるとかいう気持ちですね。

八女としては農業が主ですかね、女性農業者、若い人が育つように、何か対策を打たんといかんと思います。

— 農業委員は議会が、推進委員は農業委員会が推薦します。人數的には六十九人と福岡県でも一番多いですよ。その中に地域に一人ずつ女性を置くとか、枠を作れば、地域も変わりますよ。十年前は、議会推薦枠で女性をあげようと私に話が来て。それで一步踏み出せたと思います。

— そういう後押しがあると進むじゃないですか。塚本さんが委員や会長になられるという道が開けたから。

— 本当に女性は、家族の理解があればできるのにという人がいっぱいいるけど、家族を壊しきてまでやりたくない、できないという人が多いからもつたないです。考え方でもなんでも、女性ならでは、男性ならではです。

とにかく男性の「手を上げてでもなりたい」という意気込みには負けますね。そこまで女性がなるといなあと思ってて。今、農業委員の女性は女性部からの推薦枠なんですよ。地域でお願いできますかと言つても、なかなか。



若い人を後押ししたい

——農業では、たとえばイノシシの防護柵も、囮つて入れさせないようにするのは男の考え方だと思うんです。女性ならもうちょっと違った考え方を持つるのではと思います。

私たちソバを作っています。
ソバにはイノシシが入らないんですよ。だからソバの作付けとか、イノシシが嫌うよつな作物、その地に合つたものを作つていく。

——それに後継者問題もありますね。

私はもうちょっと農業の政策に力を入れてほしいと思います。都会からハ女に来る人たちが多くなってるじゃないですか。外から来た人のほうが発想とか考えがしつかりしてるとすよね。だから支援して、次につないでいけるようなことを行政も連携をとつてやっていくと、農業者は増えていくと思うんですね。

——食育についてもお話を聞かせてもらいますか？

農業農村の活性化をめざす女性の会で、子どもたちにジャガ

イモの収穫体験をさせたんですね。そしてジャガイモを使った給食を、子どもたちと一緒に学校に行って食べました。やっぱり食育は大事だと思いますね。そして土に触れさせること。



——すばらしいつながりですね。

いろんなところでのいろんな人との関わりが、一番大事なことかと思つんですね。

——そのほかにもやつてるものがありますか？

荒廃農地で、WAC研究会（八女市の女性農業組織）でソバを作っています。それから男女共同参画の狩野先生（久留米大学教授、八女市男女共同参画推進審議会会长）との出会いでクララ（注2）を知つて、荒廃農地で栽培することをめざす。十二年間活

きつたり、農業でちゃんと大手を振つて歩かれる時が絶対来る、ここで負けたひじかん」と私は言つてゐる。

※注1 クオータ制（割当制）
は積極的改善措置（ポジティブ・アクション）の手法の一つであり、人種や性別などを基準に一定の人数や比率を割り当てる制度のこと。

※注2 クワラ＝マメ科の多年草。根は生薬として健胃薬や駆虫薬に、全草の煎汁は害虫駆除に用いられる。



政策・方針決定過程への女性の登用、目標には届かず

「第4次八女市男女共同参画行動計画」では、計画期間が終了する令和2年度までに、市の審議会等における女性委員の比率を40%にするという目標を定めています。しかし、審議会等の女性比率は令和2年度で27.7%となり、目標の40%には届きませんでした。

(図1)。とくに、地方自治法第80条の5に基づく委員会等については、監査委員0.0%、農業委員5.8%と、女性比率が低くなっています。

また「八女市における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画」では、管理職に占める女性職員の割合を20%以上にする目標が設定されていますが、こちらも令和2年度で13.3%と目標に届きませんでした(図2)。

- ※ 「目標設定の対象である審議会等」は、地方自治法第202条の3に基づく審議会等および同法第180条の5に基づく委員会等で、計41の審議会・委員会等が対象です。
- ※ 「地方自治法第202条の3に基づく審議会等」とは、担当する事項について調停、審査、審議または調査を行う機関で、政治倫理審査会、環境審議会、都市計画審議会など35の審議会が設置されています。
- ※ 「地方自治法第180条の5に基づく委員会等」とは、教育委員会、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員会、農業委員会、固定資産評価審査委員会です。
- ※ 数字はすべて令和2年4月1日時点のものです。



ひとりで
悩まないで

女性のためのさまざまな相談窓口があります

やめ女性のための悩み相談電話

☎ 0943-24-9422

月～金曜9時～17時
(祝日、年末年始を除く)

DVや家庭、仕事のことなどの相談に女性相談員が対応します。匿名でも相談できます。秘密厳守、相談無料(電話料がかかります)

福岡県配偶者からの暴力相談電話

☎ 092-663-8724

月～金曜17時～24時
土日祝9時～24時(年末年始を除く)

DV相談+(プラス)

☎ 0120-279-889 24時間対応

みんなで協力して

『しめ縄作り』

たちばな男女まちづくり委員会



八女市立花町担い手センターで十二月六日（日）、しめ縄作りが行われました。この催しは、男女共同参画を推進する「たちばな男女まちづくり委員会」が企画したものです。地域住民約三十名のほか、今回は立花地区中高生講座からの参加もあり、初めて挑戦する方もいましたが、皆で協力しながら、講師の山口先生の指導の元で、しめ縄を作りました。

参加された方の中からは、「いろんなイベントがコロナ禍で中止になる中、開催できてよかったです」「今年はいろいろ大変なことが多かったが、これで良い正月が迎えられそう」といった声が聞かれました。



昨年から引き続き世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るい、はや一年が過ぎましたが、今だに感染者数は増加傾向にあります。生活様式もずいぶん変わったと思います。

適度な運動・睡眠・バランスのとれた食事など、これを機に生活習慣を見直し、自助・共助・公助が互いに連携し一体となることで、コロナ禍でも安心して生活できる日常を送れることを願います。

M.M